

■大塩平八郎(中齋) 儒学者。奉行所与力として“三大功績”、〈大塩平八郎の乱〉を起こして〈明治維新〉への扉を開く。

おしおへいはちろう

松平定信引退1793=

大坂で、町奉行組与力大塩平八郎敬高の子に生まれる。母は大西氏。幼名文之助。

蝦夷地直轄始1799= 6歳：父が死去。

伊能測量始・1800= 7歳：ついで母も死去。以後、祖父母に養育される。

この頃から、町人学者篠崎応道について、儒学を学び始めるが、以後、ほぼ独学。

一九膝栗毛始1802= 9歳：

いざ乃報復・ 1806=13歳：与力であった祖父のあとを継ぎ、大阪東町奉行所与力見習として出仕。

いざ船狼藉・ 1807=14歳：家譜を読み、祖先は今川氏の一族でその臣であったことを知り、現在の一介の市吏の地位を恥じ、“功名気節”をもって祖先の志を継ごうとする。

浮世風呂・ 1809=16歳：柴田勘兵衛門にて佐分利流槍術を、他に中島流砲術を学ぶ。

ゴロブニ拿捕 1811=18歳：定町廻役に出仕。

・・・・・・・・ 1815=22歳：紀州藩と岸和田藩の境界紛争を裁断。従来儒学に疑問抱いていたところ、

伊能測量終・ 1816=23歳：*呂坤の「呻吟語」に感激、王陽明の思想に触れ、中江藤樹、熊沢蕃山に私淑するとともに、公務の間に城内外の子弟を集め、文武両道を教える始める(のちの洗心洞)。

水野忠成老中1818=25歳：祖父、政之丞成余死。橋本忠兵衛養女ひろ女(後ゆうと改む)を妾とする。

・・・・・・・・ 1820=27歳：*大阪東町奉行に着任した高井実徳から人材を見抜かれ、目安役、吟味役として重用されて、本領發揮。

奉行所勤めの傍ら、儒学の講義、

シボト鳴滝塾1824=31歳：頼山陽二度来坂して来訪。

異国船打払令1825=32歳：「洗心洞入学盟誓八条」を作る。

・・・・・・・・ 1826=33歳：年来の病(結核か)癒えず、劇職に耐えがたいため、町奉行高井実徳に辞職を願い出るも許されず。また退任したくも嗣子なきため、祖母西田氏の甥格之助を養子とする。

日本外史・ 1827=34歳：豊田貢らのキリシタンまがいの俗信仰団体の詐欺事件を摘発(三大功績の一)。

シボト事件・ 1828=35歳：祖母、西田氏死。

シボト追放・ 1829=36歳：四ヶ所非人と結んで不正を働いた西町奉行所筆頭与力弓削新右衛門を、内部の圧力や抵抗に屈せずに摘発して自刃に追い込み、没収した三千両を貧民に施し(三大功績の二)。

富籤流行・ 1830=37歳：破戒僧数十名を遠島の刑に処して(三大功績の三)、巷に知られ衆人の羨望の的になるが、高井実徳が老齢のため奉行を辞職するのを知るや、それに先だって、与力職を養子格之助に譲って致仕し、自宅に私塾(洗心洞)を開いて、子弟の教育に専念。昌平黌の儒官佐藤一斎とも頻りに手紙をやりとり、清直かつ峻厳な教学の内容に心をよせるものも多く、奉行所の与力・同心、医師の子弟や淀川左岸の摂津・河内の豪農がその塾に加わる。農民を愛して近隣の村や町場に出講し、また摂津高槻、近江大溝、伊勢の津にも赴いて諸藩士とも交流、豪農たちは財政的にも、のちの大塩の乱の組織化にも重要な役割を果たす。

鼠小僧磔・ 1832=39歳：来坂し(洗心洞)を来訪した頼山陽に「古本大学刮目」の稿本を見せると、山陽は完成の際これに序文を寄せること、「洗心洞割記」については出版の後、批評することを約束するが、直後に山陽が死去。危篤を聞き急遽上洛するも間に合わず。

天保大飢饉始1833=40歳：各所に所有せる書籍多数を奉納。*「洗心洞割記」2冊を刊行。後任の東町奉行矢部定謙からも重用され、幕政への意見を徴せられるも用いられず。

・・・・・・・・ 1836=43歳：「古本大学刮目」刊行。

大塩平八郎乱1837=44歳：*飢饉が続いて窮状に陥った民衆を救済すべく談判するも、矢部の後任で、老中水野忠邦の実弟でもあった大坂東町奉行跡部良弼に拒否されると武装蜂起を決断、「檄文」を放ち、同志を募って決行するも、幕府側に鎮圧され、逃亡潜伏するも発覚すると、家に火を放って自刃。当時の人ばかりでなく、後世に語りつがれる衝撃となる。